



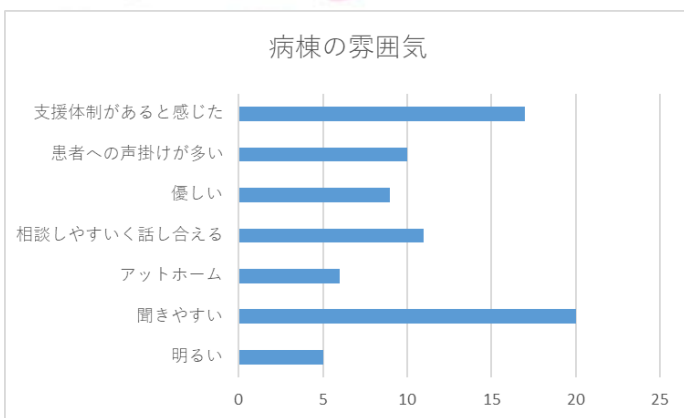
東京女子医科大学病院  
春期インターンシップ体験者の感想

## 雰囲気に関する結果

知りたいことさらに、職場の雰囲気を  
選択した人でインターンシップ参加後  
に体感した雰囲気を記述してくれた意  
見をまとめると、

- 1位 聞きやすい20名
- 2位 支援体制があると感じた17名
- 3位 相談しやすく話し合える11名

続いて、患者への声掛けが多い(10名)、  
優しい(9名)、アットホーム(6名)、明  
るい(5名)が挙がりました。



## アンケートについて

2020年1月～3月3日の春期インターン  
シップ(本院)に参加した116名の方のア  
ンケートを集計しました。

インターンシップで知りたいことを選択  
式アンケートをとった結果をこのページ  
でまとめます。

自由記述式で得られた各病棟での体験・  
感想は2ページ目以降にまとめますので  
ご覧ください。

## インターンシップで 知りたいことの集計結果

- 1位 職場の雰囲気 100/116名中
- 2位 教育体制 40/116名
- 3位 勤務体制 1/116名

参加者の86%の方が職場の雰囲気を知り  
たいという結果です。インターンシップ  
に参加された方々は、患者さんやご家族  
への接し方や、看護師同士・他職種間  
でのコミュニケーションをみたり、情報共  
有の仕方や後輩から先輩へ質問する様子  
とその指導の受け方などをみたり、休憩  
中に看護師と話をしたりして雰囲気を感じ  
ていた様子です。

東京女子医科大学病院の  
インターンシップ参加者に対する  
アンケート集計結果

## 皆さんこんにちは

東京女子医科大学の採用担当です。

2021年卒の方を対象にしたイン  
ターンシップ・病院見学会や合同  
就職説明会などが中止となっている  
中で、皆さんが必要としている  
情報を知るために何か発信できな  
いかと考えました。

女子医大では、インターンシップ  
参加者に対して開始前後にアン  
ケートと感想を記入してもらって  
います。それらを今回集計し、皆  
さんに発信することで、体験でき  
なかったインターンシップでの様  
子を少しでも想像してもらえたら  
と考えています。

集計された感想は、個人の価値  
観・見たものによるものなので、  
これを読んでくださっている皆  
さん一人一人が同じように感じるか  
はわかりませんが、一助となれば  
幸いです。

はじめに  
この資料について





## 看護の様子

様々な年代の子どもたちが生活する場で対象に合った看護を行っており、子どもも笑顔で過ごしているのを見られた。

一人一人の患者に合わせて関わる際に気を付けていることや、どう関わればいいかを考えていると知りました。またその看護によって、患者さんも笑顔になったり処置などを素直に受け入れたりしていて、温かみある看護が実践されていると感じました。

## 新人教育

入職1年目の方も1年目と思えないほど安定感があり、新人の教育体制が整っているのだと感じた。

1年目の看護師さんが主任さんにわからないところを聞いて丁寧に説明してもらっている場面を見て、気軽に質問できる環境が素敵だなと感じた。

## 雰囲気

スタッフ間の連携も徹底されており、1人1人の看護師が自分の意見を言い合える関係性があり、とてもいい雰囲気だと思いました。

## 病棟の様子

小児科には保育士の方もいて、様々な方向での連携も見られてとても良かったです。

小児科のインターンシップに参加して分かったこと感じたことはなんですか？

小児科へは19名の方が体験して頂きました。

小児病棟では、疾患（喘息・難治性てんかん・筋ジストロフィー等）を持った患児の治療に合わせた看護と家族看護を行っています。

小児看護専門看護師が中心となり勉強会を開いたり、小児看護に関する相談を受け付けていたりしています。相談内容は具体的な小児看護や家族看護のことから、成人病棟に入院した子どもの看護について、小児看護・小児医療にかかわる研究がしたい、など多岐にわたっています。

また、本院・東医療センター・八千代医療センターの3施設合同小児看護研修もあり、お互いの特徴や看護を知ることで幅広い視野で自分の看護を捉え、より質の高い看護実践につながるよう実施しています。



採用担当より



## 病棟の様子

患者の安楽を考えた行動として、痛みを伴う行為は2人で行うといった工夫がなされており、患者のことを考え様々な工夫を取り入れているんだなと感じた

NICUは産科と隣接しています。

部署に隔たりなく、全体が1つのチームとなり看護をしています。

## 雰囲気

今まで実習してきた科とは違い、医師が身近に感じられコミュニケーションを取りやすいと感じました。

看護師同士が自身の担当患者でなくても様子を見たり助け合っており、看護師1人で抱え込まなくてよい働きやすい環境が整っており、それが患者の安全安楽につながっていると感じた。この病院の患者の安楽を考えた行動として、痛みを伴う行為は2人で行うといった工夫がなされており、患者のことを考え様々な工夫を取り入れているんだなと感じた。

## 看護の様子

先輩看護師は小さな赤ちゃんの声にもすぐ反応し、疾患を持っていて大きな声で泣けなくても小さなことにすぐ気づけ対応できているところが凄かったです。日々そばにいる看護師の役割がとても重要だと気付きました。

面会時間が短くても母子の愛着形成ができるようケアの方法を伝えたり、時間調整をしたり、声かけをしたりなど関わりを工夫していると分かった。

成人の患者より処置のタイミングに注意していたり、母親とのコミュニケーションや母乳を栄養の一つとして与えることなど違うところも多かった。体重の変動や薬の量などを気を付けなければいけないことも多く大変そうだったが、GCUにいった赤ちゃんの沐浴を看護師が笑顔で見えたり、両親が赤ちゃんに関わっている姿を見ると素敵なのところも多いなと感じた。

NICUの  
インターンシップに参加して  
分かったこと感じたことは  
なんですか？



教育について、NICUは本院・東医療センター・八千代医療センターの3施設で合同研修を設け、知識技術の向上に取り組み、施設内のローテーションにつなげています。内容は1年間のプログラムで、講義・研修・レポート・まとめの流れを組み、より実践につなげられる作りとなっています。

施設の看護質向上に向け、認定看護師の研修も3施設で行い、個を含め、部署の質向上につなげています。

NICU・GCUへ個々の希望に合わせ体験しました。

NICUでは超低体重児から身体に何らかの障害を持った患児、GCUではNICUからの継続治療と、在宅に向けての家族指導、小児病棟では、疾患（喘息・難治性てんかん・筋ジストロフィー等）を持った患児の治療に合わせた看護と家族看護を行っています。



採用担当より



## 看護の様子

短期間のかかわりの中でも患者のADLを考えQOLを下げないことが必要な看護と知った。

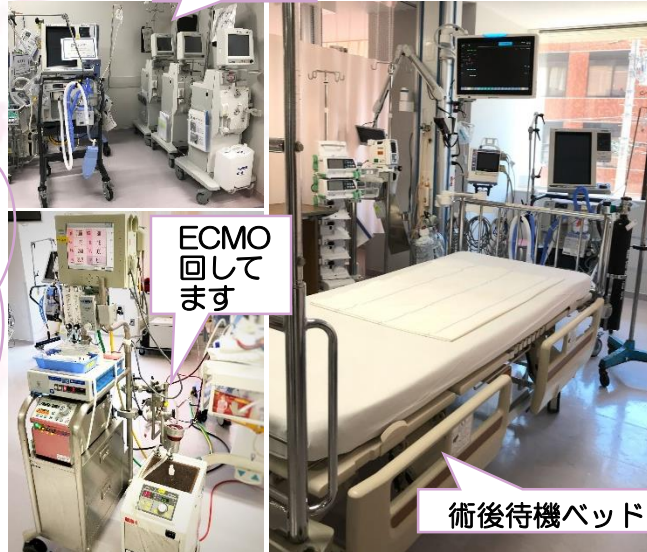
看護師さんと患者さんの関わりや看護師さん同士のコミュニケーションを見て、患者さんの症状をとて注意深く観察・アセスメントしていることと、そのために看護師間での親密なやり取りが大切であることなどが一日を通じて感じられた。

師長さんの「ICUの時期でどれほどADLを回復させられるかは細目に体位変換を行ったり、早期に上半身だけ起こすことで大きく変わる。ここでのケア次第でその後のQOLが良くなることもあるし、下がってしまうこともある。看護師のここでの役割はとても重要」という言葉にとて学ばせて頂きました。

手術が多く疾患が多い中で豊富な知識と判断力が必要になることが分かった。

受け持ち患者が2名で、患者により深くかかわれ、疾患の知識がより深められることが魅力と感じた。

透析の装置



クリティカルな認定看護師がたくさんいます。

認定看護師が中心となり勉強会を開催しています。それぞれのステップアップに合わせて参加することで、成長をしていくことができます。



採用担当より

## 病棟の様子

医療機器が多く、全身管理と一言では言えない知識と技術が必要なが分かった。

現場の看護師さんたちに勉強会がたくさんあるから知識を深められることや、ICUで働くことで外科的スキルアップができるなどの病院とICUで働くことの特徴を教えてください、この病院でたくさんの方を見て看護観を広め、勉強することで看護師としてのスキルアップをはかっていけることがイメージでき、就職への意欲が高まった。

術後の患者さんや様々な科の患者さんがおり、豊富な知識と判断力が必要になると改めて実感しました。

看護師の連携や医師とのコミュニケーションを実際に見られた。

## 雰囲気

多職種が多いこと、認定・専門看護師が多く、勉強会開催が多く学べる環境であることを知った。

スタッフルームに「私はこういう看護がしたい」と各看護師が書いた目標がはってあり、素敵だなと思いました。

行われているケアや処置、使用する医療機器どれも新鮮で、複雑で魅力的でした。自分がしたい全身管理は今まで簡単に口にしていたが、今日より具体的で明確な目標が見つかった気がします。

先輩・後輩に関係なく距離が近くて職場の雰囲気も明るくとても仕事がしやすい環境だなと感じました。

な感分参イ  
んじか加ンC  
でたっしタU  
すことてーS  
かとはことン  
?はことシ  
?はことッ  
?はことプ  
?はことの

## 新人教育

新人看護師が先輩看護師に質問やわからないことがあったら相談したり、先輩が聞かれたことをやさしく丁寧に教えていたりする状況を見て、新人看護師の医療ミス防止や人間関係によるストレスの軽減にもつながると思いました。

2対1の看護の体制でしたが、新人さんや2年目の看護師さんが受け持っている患者さんのことを他の先輩看護師さんが気にかけていて、育てる環境がとても良く作られていると思いました。



## 看護の様子・雰囲気

術後の経腸栄養を退院後も継続が必要でその指導場面を見てあたたかい対応をされていて患者の心のケアもされていることを感じた。（消化器外科を体験した方）

補助心臓つけている患者さんの、体調を見て言動や表情からわかることを大切にしていることや、病気だけでなく今後の仕事や家族背景など、退院後の生活についてもコミュニケーションを取っていることが分かりました。（心臓血管外科を体験した方）

補助心臓を実際に見て術後のケア、最先端医療の看護を体験したことで心臓血管外科で看護をしたいとより感じた（心臓血管外科を体験した方）

患者や家族の情報共有意見交換が行われチーム医療の必要性を学び、患者の個別に沿って臨機応変な対応をみて「人の手と心を使った看護」を実践していると感じた（脳外科病棟を体験した方）

忙しく動き回っている状態でも患者さんの前ではしっかり話を聞き不安な気持ちに寄り添って身体症状や環境に細かく質問しながら看護をしている姿を見て勉強になった。（脳外科病棟体験した方）

脳外科病棟を体験し、看護師と患者さんとの関わり・看護師間の関係性をみて、私もここで働き看護がしたいと思いました。（脳外科病棟体験した方）

忙しいイメージで見学を始めたが、術前後のケアだけではなく、化学療法も含めたターミナルケアも行い幅広い知識が必要なことや自分自身の看護観に結びつくような体験をしました。（泌尿器科を体験した方）

外科系の病棟へは40名の方が希望に合わせてそれぞれの部署で体験をして頂きました。外科は在院日数が短いと思ったが意外とそうではないんだなと気づき、在宅に向けての指導は多岐にわたることも感じ取っていただきました。

心臓血管外科では認定看護師と補助心臓を付けた患者の管理から在宅へ向けての指導、消化器外科では、在宅に向けての栄養管理指導、脳神経外科では、その患者の残された障害と自宅での生活環境について、手術して根治ではなく、残された機能を最大限使ってその人らしく生活するための在宅医療について、泌尿器では術前後の看護から化学療法まで幅広い知識が必要だと感じていただきました。忙しそうだが、患者に向き合うときはしっかり時間を取って話していたと感じています。術後のライフスタイルの変容は後々のQOLに大きく影響し、看護師の指導力が求められますね。



採用担当より

## 教育体制について

補助心臓を始めてみた。認定看護師が専門分野の指導を行っていると感じ、最先端の医療の看護体制を整えている病院と思った。（心臓血管外科を体験した方）

1年目の看護師の目標をチームで共有し、先輩看護師が時々見に来ていた。（脳外科病棟を体験した方）

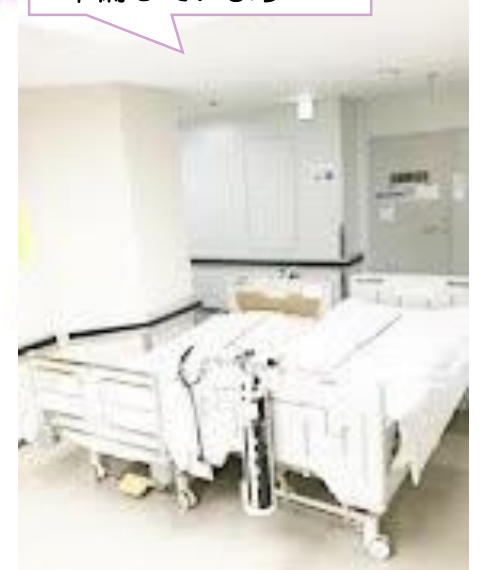
日々の中で先輩看護師に質問や相談しながら看護を行っている姿を見て良い環境だなと感じた。

外科病棟のインターンシップに参加して、なんだったこと感じたことはありますか？

術後は心電図モニター  
酸素飽和度のモニターで  
患者の状態を観察します



術後、帰室のために  
ベットを作って  
準備しています



## 看護の様子

患者が自宅に帰った時のことを考えその人らしく暮らしていけるようなことを考えることが大切と聞き、すごいと思った。(循環器内科を体験した方)

女子医大の学生です。実習だけではわからない動きが見ることが出来てよかった。複数の患者を受け持ち一日のスケジュールをどのように組んでいるのかを伺い働く自分が想像しやすくなった(消化器内科を体験した方)

昨年は外科でインターシップに参加して雰囲気良かったので、今回は領域を変えて内科の参加をした。ケアが数多くあり印象が変わった、今後の実習に生かしたい(神経内科を体験した方)

末期癌の方が今後の在宅をどのように過ごしたいのか、その人らしくどうしたらよいのかを医師と相談している場面を見て、患者に寄り添っていると感じた。患者を尊重していることが分かり素敵な病院だということが分かりました(化学療法科を体験した方)

## 教育体制について

多職種間でも声かけやすい雰囲気があり、問題発生時職場内で共有し問題解決をしていた。教育環境が整っていると感じた。(循環器内科を体験した方)

確実なスキルのある方が新人看護師のサポートをしていて、良質な看護を学べる環境であることを感じた(血液内科を体験した方)



入院し安心して療養生活を送り、退院後安心して家庭生活を送れるよう指導するためのパンフレットです。



## 雰囲気

病棟の雰囲気がアットホームで働きたいと思った。師長が積極的にスタッフとかかわりとても良い印象を受け病院に興味を持ちました。(循環器内科を体験した方)

自分の理想に近づける看護ができるか不安という質問をしたら「患者が退院後の生活を想像しながら関わる力が求められている、患者の気持ちを考えたり想像することが苦手であれば楽しいはずです。」と答えて頂とても嬉しかった。(消化器内科を体験した方)

内科病棟のインターンシップに参加して良かったですこと感じたことですか？

116名中、内科系の病棟へは21名の方が体験をして頂きました。

循環器内科・消化器内科・神経内科・血液内科等々の部署でいろいろなことを観察しています。内科なのに穏やかな病棟をイメージしていたようですが、内科ならではのケアの多さを感じ印象が変わったといわれています。内科病棟の特徴は、慢性疾患が多く入退院を繰り返す方も多く、患者のライフスタイルの変容が求められるところで、看護師の指導力が求められます。また、在宅療養のための社会資源の活用が患者の生活を支え、マネジメントを社会支援室と共同しています。

院内での新人教育に加え、各職場においては、日々の業務は看護ケアの手順に沿った安全なケアの実施を始め、それぞれの領域で必要な知識・技術習得の教育をプログラムしています。



採用担当より



## 看護の様子

短い時間で関わりで、少しでも安心してもらうために声掛けはもちろん、温度や音楽などにも気を遣い支援していることが分かった。

臓器移植を見て、器械出しの看護師さんの動きがテキパキとしていて、先生の指示にすぐ答えられていて、自分もこのような看護師になりたいと思った。

## 雰囲気

八千代・東医療と規模や雰囲気が違っていた。

手術室ではとても緊張感のある現場で看護師の動きも迅速で自分も同じように動けるか不安になったが、逆にここで働きたいという意欲も高めることができた。



手術室には9名の方が体験をして頂きました。当院の手術室は全部で26室あり、ダヴィンチ・ハイパスコットと最先端の手術を行っています。

左の写真は術前の5人チェックの様子です。患者さんに正しく手術を行うためのチェック方法です。ピンクのキャップは1年目の看護師で、色でわかるようになっていて、写真の⑤が新人看護師です。術中のフォロー体制に役立っています。



採用担当より



## 手術室の様子

働く看護師の多さに驚いた。新人が生き生き働く様子が見られたり、医師に指示がなくても次々と器械出しが出来るベテランナースの様子を見ることができ、今後自分が看護師としてどのようにスタートして、どう成長したいかを想像することができた。

ダヴィンチを使用した手術や小児科の手術など、多くの症例の手術を見学したその中で看護師の動きを見ることで分からないことが知ることができました。

消化器と帝王切開の2つを見学した。消化器では先輩が絵を使って分かりやすく説明していて、様々なコミュニケーションスキルを用いて指導をしている姿を見た。帝王切開では、寄り添う看護とは何かを深く考えさせられ、実際に看護師がしている関わり方で患者さんがどう変化するのかを見学ができ、患者さんの視点で考える重要性を改めて学べた。

## 新人教育

教育もシャドーからゆっくり関わっていけることを聞き、安心して働いていくことができると感じた。

1年目の先輩から教育プログラムによる学び易さや、実際に独り立ちでの外回り看護師としての役割を得るようになったことへの目標到達したときの達成感を聞くことができた。手術室看護師としての心得を聞き参加してよかったと感じた。

個々の人柄を尊重してくださっていて、看護師としてしっかりと成長していくことができると感じました。

先輩もとても丁寧に指導をしてくださり、分からないことがあれば、すぐに聞くことができる環境が整っていると感じました。

3か月ごとのクールに分け、チェックリストを用いて何の知識技術を取得すればよいのかがわかるようになっていて目標が明確になっていて学習も進めやすと感じた。

手術室のインターンシップに参加して分かったこと感じたことはなんですか？



## 看護の様子

助産師と妊婦との関わりでは、妊婦の質問に丁寧にわかりやすく回答したりと心身に関わっている様子を見ることができ、私もそのような助産師になりたいと改めて強く思いました。また、MFICUで分娩の瞬間に立ち合わせていただき、初めて出産をみた感動を再び感じたとともに私の興味であった無痛分娩の様子を見学することができ、様々な学びも得る事ができました。

陣痛でこれ以上痛くなるのか不安がっている産婦さんに、優しく声かけしているのが印象的でした。

ハイリスクの妊産婦さんの関わりを見学させていただいて、細かな対応や目配りを欠かさないメリハリのある病棟であることに気付きました。

産科病棟(MFICUを含む)を6名の方が体験していただきました。

初めての無痛分娩を見学した方や、合併症を持った方の出産場面を体験し、安全な出産にチームの先輩がとてもサポートしてくれていると実感していました。とても連携の取れているチームと実感してくれています。当院には合併症を持ったハイリスクな妊婦さんも多く、医師、助産師の結束力は強いです。3施設のローテーションにも取り組んでいます。

採用担当より



## 病棟の様子・雰囲気

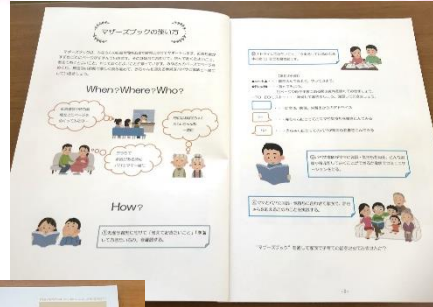
カンファレンスでは、妊婦、褥婦さんだけでなく、その周りの家族のサポート体制や、どうしても里帰りしたい場合はどうすれば良いかを話しあっていて、実習では考えなかったことなので、とても勉強になりました。

看護師同士の雰囲気があたたかい所が印象的でした。ミニカンファレンスでそれぞれの受け持ち患者の状況を共有し合うことで1人では気付かなかった問題点が次々とあがり、それに対する対策考える際には、先輩後輩の壁無く意見交換が行われていました。この見学を通して看護師間での関わりが深く成長し合える環境だと感じました。

産科、MFICUを見学させていただきました。第1印象はどちらの病棟も雰囲気がとても良く、カンファレンスをしてその雰囲気の良さから相談しやすい、意見をしやすい環境であると感じました。



NICUは産科と隣接しています。部署に隔たりなく、全体が1つのチームとなり看護をしています。



Mother's Bookでパパママの妊娠期間をサポート

## 新人教育

看護師同士でわからないところや、患者の変化の共有をしているところも見て、ベテランがアドバイスの言葉を新人に言っていてチームでの連携が学べました。ハイリスクの患者の分娩にとっても興味をもてました。

雰囲気が良く、先輩の方が手厚く指導している様子があり学ぶ環境としてとても良いなと感じました。業務を行っている中で先輩の方が何度も声かけて、注意すべき点を確認したりカンファレンスを通してどんなように考えて看護をしていくのかをフィードバックしたりを考える過程も学ぶことができ、それにより個別性に合わせた看護ができているのだと感じました。

3施設あることにより、合同研修や施設間移動ができキャリアをつんでいく上で多くの学びが得ら得ることも聞くことができたので、とても魅力的でした。

産科・MFICUのインターンシップに参加して分かったこと感じたことはなんですか？



分娩待機室



分娩室



## 新人教育

認定看護師の指導がある(救急外来を体験した方)

新人教育プログラムがある(救急外来を体験した方)

気軽に相談できる雰囲気 で指導を受けていた(救命ICUを体験した方)

救命関連の部署へ11名の方がインターシップを体験していただきました。

患者・家族ともに緊急入院したことによる急性混乱から身体・精神をケアし、回復過程絵と導くことや、退院に向けての地域とのつながりを考えたマネージメント。看護師の成長支援を認定看護師やクリニカルコーチでステップアップを考えたプログラムで育成に取り組んでいます。



採用担当より

## 病棟の様子・雰囲気

聞いたことに優しく対応してくれた(救急外来を体験した方)

アットホームな雰囲気で先輩が優しい(救命病棟を体験した方)

生き生きと働き上下関係なく楽しそう(救命病棟を体験した方)

チームワークの良さがとても重要であると感じた多職種の方も微笑みかけてくださりとても印象が良かった(救命ICUを体験した方)

多職種と連携が取れ働きやすそうな雰囲気でした(救命ICUを体験した方)

忙しい中でも雰囲気がよかった(救命ICUを体験した方)

## 看護の様子

外来だけではなく院内急変の対応もしていることが分かりました(救急外来を体験した方)

看護師間や多職種間との連携場面を多く見ることができ、連携が取れていると感じた、家族看護も聞くことができ患者さんや家族に丁寧なかかわりをしていると感じた(救命ICUを体験した方)

救急車到着時のチームワークや臨機応変な動きに、自分のこのような看護師になりたいと思った(救命ICUを体験した方)

在宅支援加算の点数を上げる目標に対し、チーム一丸となって取り組み、患者さんに対する質向上が実施できていると感じた(救命病棟を体験した方)

救命ICUのインターンシップに参加して分かったこと感じたことはなんですか？

